

# 5大会連続全国へ



発行所  
鹿児島県立松陽高等学校  
新聞同好会  
鹿児島市福山町573番地

## 第2号

- 1面…吹奏楽部特集  
吹奏楽部5大会連続全国へ
- 2面…衆院選 意識調査  
宍野先生と党幹事長を描く
- 3面…VOL.2 身近に生息  
「特定外来生物」
- 4面…秋冬の松陽生の活躍  
松陽グルレボ探検隊

Art Days  
アートな日々  
VOL.3  
やっほー!会いにきたよ



制作 尾曲梨乃彩(3-8)

熊を害獣として殺処分する是非をテーマに制作された。グロテスクな内臓をイメージした編み物と足元の人骨が特徴。安心感や柔らかい印象を与える毛糸を使って熊の内面性を表現している。  
〔永留成望〕



今年秋を感じる間もなく、気づけば寒さに悩まされる季節になった。実感として、過ぎる時が過ぎる早さは、年齢を重ねる程に進んでいくらしい。しかし、私たち高校生も、月日の過ぎる早さを強く感じる。それはおそろしく進級や卒業、就職や進学といった大きな人生の変化が、等しく訪れる時期だからなのだろう。▼人生の変化が、刻一刻と迫る中、新しい環境に心を躍らせる一方で、不安な思いを抱える人も少なくないだろう。入試や卒業を控える3年生はとりわけその思いが強いだろう。▼ところで、あなたが今感謝の気持ちを抱えているとしたら、誰が真っ先に思い浮かぶだろうか。家族や友人、お世話になった先生など人によって様々だろう。では思い浮かんだ人物に感謝の気持ちを伝える時間はどれくらいあるだろうか。卒業し県外で過ごすことになれば、ますます感謝の気持ちを伝える機会は減るだろう。そうだけでなく、自分から伝えようと思わなければ改めて感謝の言葉を述べる機会はほとんどない。▼時が過ぎるのは早い。だからこそ当たり前に会いたい人に会える今の時間を大切に、心からの感謝を伝えることが大切だと思う。〔梶木詩桜〕

## 吹奏楽部 第72回全日本吹奏楽コンクール 「宇宙の音楽」 銀つかむ

10月20日に宇都宮市文化会館で開催された第72回全日本吹奏楽コンクール(全日本吹奏楽連盟、朝日新聞主催)の高校の部で、九州支部代表として本校吹奏楽部が出場し銀賞に輝いた。吹奏楽部の全国大会出場は、2019年に13年ぶり6回目の全国大会出場を果たして以来5大会連続となる。今回は自由曲でスパーク作曲の「宇宙の音楽」を披露。超絶技巧の求められる難曲に挑んだ。

「宇宙の音楽」のイメージづくり工夫  
全日本吹奏楽コンクールは全国各支部から推薦された30団体で行われる。この大会に向けて九州各県の予選に参加した学校は延べ425校、全国では延べ3614校。その中の勝ち抜いた30校のみが出場を許される狭き門だ。本大会で松陽吹奏楽部は課題曲として行進曲「勇気の旗を掲げて」(作曲・渡口公康)の他、自由曲として「宇宙の音楽」(作曲・フィリップ・スパーク)を演奏した。



全日本吹奏楽コンクールで自由曲を演奏する松陽吹奏楽部。「宇宙の音楽」は金管バンドのために書かれた原曲を2005年に作曲者の手で吹奏楽用に編曲された曲。(宇都宮市文化会館)



副部長 福里優佳さん (3-7・武岡中)

目指していた金賞の獲得に届かなかったことについて、部長の田之上莉子さんは「金賞の壁は厚いと実感した結果でした。悔しかったです。本番は悔いの残らない演奏をできたので良かったです」と語った。また、自由曲の演奏については「私たちの演奏を聴いてホール一面に宇宙が広がる様子を想像してもらえよう」と答えた。



部長 田之上莉子さん (3-1・桜丘中)

副部長の福里優佳さんは自由曲について「部員全員で曲のイメージを統一するために話し合いを重ねました」と語った。宇宙という壮大なテーマに悩む中、OBが作成した宇宙をイメージした動画を皆で視聴したことをきっかけに、部内の意思が固まったという。

生徒指揮を担う今村優一郎君は日々の練習について「基礎合奏を継続し、いつか成果が出るを信じて頑張ってきました。一日で成果が出なくとも努力することを大切にしました。また、松陽吹奏楽部は生徒同士がとも仲が良いのも魅力です」と答えた。

また、練習計画を立てるなど顧問と部員を繋ぐ役割のインスペクターを担った下迫理菜さんは「練習時間が限られる中で、コンクールやコンサートに向けて練習内容を工夫したり、時間を有効に使うよう計画しました」と語った。また、「練習を重ねて曲が完成していく中で、部員が一つとなり、言葉では言い表せない感情が湧き出た時、吹奏楽の良さを実感します」と練習の中で感じる吹奏楽の魅力を語った。

成果を信じ 基礎合奏に励む日々  
生徒指揮を担う今村優一郎君は日々の練習について「基礎合奏を継続し、いつか成果が出るを信じて頑張ってきました。一日で成果が出なくとも努力することを大切にしました。また、松陽吹奏楽部は生徒同士がとも仲が良いのも魅力です」と答えた。

## 吹奏楽部への熱い思い 全国金賞目指し努力地道に

吹奏楽部顧問の立石純也先生は本校の第三期生で、高校時代は吹奏楽部で部長を務められた。また、1998年から10年、そして2017年から現在まで8年間の計18年にわたり本校に勤務されている。松陽高校と吹奏楽部に長年力を注いでこられた立石先生にお話をうかがった。

Q 今回の全国大会を振り返っての思いを教えてください。  
A 全日本出場はとも光栄なことだと思います。銀賞という結果には顧問としての力不足を感じます。

Q 全国大会の演奏について教えてください。  
A 「奥行きのある演奏」を目指し、スパーク作曲の「宇宙の音楽」はテーマ性が「奥行き」を見いだすのにぴったりだと思いました。10か月に渡り取り組んでいてゴージャスな音を目指しますが一言では言い表せません。練習はルーティーンにこだわり、繰り返しの練習を大切にします。

Q 次の目標は何ですか。  
A まずは、地道に次の演奏会に向けて準備します。その先に「全国大会金賞」があると思います。



音楽科 教諭 立石純也先生 (55)

念願の全国大会金賞には届かなかったものの、彼らの言葉には力を出し切った充実感が感じられた。部長の田之上さんは「苦しさを乗り越えた先に喜びが待っています。応援しています」と後輩達にエールを贈った。

〔梶木詩桜〕



生徒指揮 今村優一郎君 (3-7・松元中)



インスペクター 下迫理菜さん (3-1・伊敷中)



九州吹奏楽コンクールで金賞を獲得し、全国出場への喜びにわく吹奏楽部

※この新聞の題字「松陽スピリット」は、若松璃央さん(3-1)の書です。氏名横の中学校名は出身中です。